

町民フォーラム グループリーダー会議資料

【打合せ事項】

1. 福島町まちづくり推進会議への提言書の提出について
2. 提言書作成に向けた各グループ提案の取りまとめについて
3. その他



平成 23 年 12 月 13 日

福 島 町

町民フォーラム開催の目的

定住促進、少子化対策は、特に若者の定住促進がその柱です。若者の定住促進のためには、地域資源を集中活用した産業振興（第6次産業化等）による働く場の確保を核にした、「食べる・働く・寝る・学ぶ・遊ぶ、憩う環境等の高度化」「子どもを産み育てる喜び、充実感の得られる子育て環境づくり」「機能的な交通環境」「日常的な消費活動の場」など生活全般にわたる環境整備と安全・安心なまちづくりが求められます。

環境整備に向けては、地域資源の連携（「ハブ」と「スポーク」のリンケージ）により、地域のポテンシャルを十分に発揮させ、日常性の中に非日常性のある“福島町らしさ”（個性）を創出する方策を展開していく必要があります。

このため、住民と行政による“協働のまちづくり”を推進し、福島町の若者が生活基盤を確立し、夢ある人生設計が実現できるまちの創造と、町外の若者等に住みたい、住んでみたいまちとして受け入れられ、定住促進と少子化解消をめざすことを目的として、町民の各層の代表者、町職員（若手・中堅）による、町民フォーラムを開催し、ワークショップ等により今後の「あるべき姿」を取りまとめます。

『共創型社会の創造』



「共に学び」「共に理解し」「共に行動し」「共に感動する」



『豊かなコミュニティ環境の創出』

町民フォーラムのテーマ(仮)

『住みたい町・選ばれる町ふくしま～“愛”ランドふくしま～』

目指すもの

★地域という定住舞台づくり

地域コミュニティは住民が主役になる舞台です。地域の全ての住民が自己実現できる環境をそなえた舞台であることが望まれます。

★主役（住民）が演じやすい（暮らしやすい）舞台づくり

行政は、建物など基盤や、制度を整備して、舞台の形を整える。

その中身を充実させるのは、企業・団体、そして住民自身の役割です。

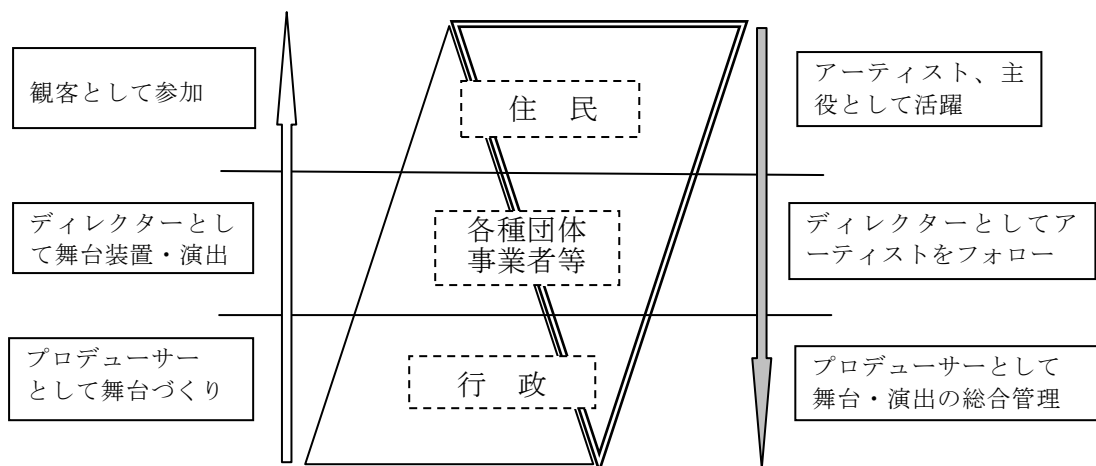
- ・行政は大道具、小道具の整った舞台を創り出し総合管理するプロデューサー
- ・企業・団体等は住民ニーズをアレンジし舞台を演出するディレクター
- ・住民はその舞台装置の上で演じる主役（アーティスト）として相互連携し、地域コミュニティという舞台の機能を高めていくことが求められます。

ゆとりと豊かさのある地域コミュニティには、生活を営む場という舞台、自己実現に向け就労や社会参加を楽しむ場という「ハブ（車輪の中心）」＝スポーク（車輪のスポーク）」の緊密化が求められます。

「ハブ」と「スポーク」のリンケージは、それぞれ個別・単独ではなく、ネットワークを形成することによって、地域生活の場という「ハブ」機能、触媒機能が最も有効に活用され、「スポーク」である地域での就労の場、活動の場、学びの場、自由時間活動の場など、社会参加を楽しむ場という地域コミュニティの高度化も促進されていくこととなります。

行政・事業者・団体の役割

新たなまちづくり



従来のもちづくり

新しい公共の創造に向けて、地域を経営するという視点から、住民一人ひとりが主役（アーティスト）として、持てる能力を最大限発揮し、生涯を演じて過ごすことができる地域コミュニティを創り出していくことであり、住民は単にサービスの受け手（株主）としてだけでなく、サービスの提供者（経営者）でもなければなりません。

各グループが議論してきたこと

■第1グループ

【若者定住促進として重要なこと】

- ◎雇用の環境（男女一緒、若い人達の多い職場、休みを取りたいときに、休みが取れる）。
 - ・隣町より住みやすい環境を創ること
 - ※生活環境の整備と雇用環境、例えばどのようなこと
 - ・高校生が地元就職し、定年まで働き続けられる雇用の創出
 - ※例えばどのようなことは何かアイデアはありますか？
- ◎豊富な職種
 - ※本町に求められる業種はどのような分野だと思いますか
- ◎若者が好む3K（キツイ、キケン、キタナイ）以外の仕事
 - ※若者が好む仕事は何か、その創出方法を考えましょう
- ◎自立できる収入
 - ※どのように考えますか
- ◎最低手取り20万くらい、ボーナスは欲しい
 - ※20万円が自立できる最低限の収入ですか？
- ◎自立して暮らせるために町が経済的に補助してほしい
 - ※町は経済的支援ができる資金を生み出せますか

【少子化対策として重要なこと】

- ★子どもを安心して産み育てられる地域コミュニティの姿が見えると良いですね
（教育環境、子育て支援、医療機関等）福島町の特色が考えられると？
 - ・「子育て中はお母さんは働けない」という意見があります。何か解決方法はないですか？
- ◎子どもたちが安心して遊べる公園が欲しい。
- ◎子どもが減っているので子どもたちがたくさん集まる場所が欲しい。
- ◎吉岡地区には遊ぶ場がないので充実してほしい、福島との垣根を越えられたらよい。
- ◎大人も子どもも気軽に集まれる場があればよい。
 - ※福島町のニーズに合った、児童公園、児童館のイメージはどのようなもの
 - ※多世代交流の場としてはどのような事が考えられますか
 - ※福島地区と吉岡地区のそれぞれの持つ環境を活かした役割を考えてみましょう
- ◎若い男女が出会える場を創ってほしい。
 - ※いいですね。きっかけづくりのための場はどのようなものをイメージしていますか。
- ◎保育サービスも利用者にあわせて預かる時間を決められると良い。
 - ※一時預かり、一時保育等の場としてどのようなものがよいか考えましょう

◎医療機関の充実。

◎習い事の種類の少ない

※子どもの学習の充実が優先されることは楽しいことですね。

■第2・4グループ

【若者定住促進として重要なこと】

◎職場を増やすには、

- ・賃金、雇用条件が良いこと（魅力ある職場）
- ・企業誘致（地元特産品の加工工場など）

※地元特産品はどのような製品がありますか

※仕事の選択がない。若者には選択肢を与えないと難しいと思いますが、何か思いつく具体的な例はありますか。

◎交通⇒利便性の強化

- ・バスの本数、料金

※交通利便性の強化は重要なことですが、何から手がけますか

◎知名度がない

- ・町外から見て福島について（雇用関係が）よくわからない。
- ・情報発信によるアピール

※何（どのようなもの）をどのようにアピールしていきますか

※「昆布のバイトをする学生も多い」という意見もある。

昆布のおいしい食べ方は？

※「高校生の流出防止」「福島商業高校への進学率を高める」という意見もある。

町民が協力できることはありませんか

【少子化対策として重要なこと】

◎若い人が増える＝子どもが増える

（定住促進） （少子化対策）

※「働く・食う・寝る・学ぶ・遊ぶ・憩う・集う」何に取り組めますか

◎子育てしやすい環境の整備

※具体的にイメージするものはどのようなことですか

◎若い人を増やす（定住促進）

- ・若い人は減る一方

※「高校を残すこと」という意見がありますが、定住促進にも高校生の流出防止が課題としてあります。町民全員で考える必要のある大きなテーマ（重点課題）ですね。

同時に、子どもが増えれば、小・中学校は残るとの意見もありますが、どう思いますか。

◎結婚支援（未婚者が多い）⇒出会いの場

・就労支援で職場のつながり⇒出会いの場になる

※就労支援はどのようなことで行うのか、イメージはありますか。

◎金銭面の支援

※町は経済的支援ができる資金を生み出せそうですか

◎若い世代の考え方の変化（女性の社会進出）

※男女共同参画社会、男女雇用機会均等法

■第3グループ

【若者定住促進として重要なこと】

◎雇用が必要

※職場、仕事場を増やすためには、どのような職場、仕事場をどのような方法で増したらよいと思いますか

◎企業を持ってくる

※来てくれるとすればどのような企業が良いと思いますか。

◎新幹線が必要

◎若者が必要ないみたい

※学生の子たちが進める道（就職の場や将来の為に勉強できる環境）を創るために、何か具体的に考えてみてください。

※景観については、どのようにしますか？

※コンビニ、ファミレス、アミューズメントは大事な視点ですね。どうしましょうか。

※学び、遊び、働く等を両立させる方法はないですか。

【少子化対策として重要なこと】

◎雇用が必要

※個別具体的に出来そうな提案を考えてみましょう。

◎アウトドアが少ない

◎出会いがない

※医療・福祉についても検討を進めてください。

※子育て負担を軽減させるためには？

※学生の子たちが進める道（就職の場や将来の為に勉強できる環境）を創る。

※どのようにして若い夫婦を増やしましょうか。

■第5グループ

【若者定住促進として重要なこと】

- ◎長期労働
- ◎働く場所と職種の充実 ⇒ 雇用の拡大 職が充実すると若者が選択しやすくなる。
※どのような職場、仕事場をどのような方法で増したらよいと思いますか。
企業誘致は方法はどのようにしたら良いですか。
- ◎就労の確保 ⇒ 福島よりも、良い環境にいつてしまう。
- ◎働く場所の確保 ⇒ 町外から引越してきて、何年間も不便を感じていた。
働く場所が限られている。
- ◎安定して働ける場所 ⇒ 短期よりも長期雇用

【少子化対策として重要なこと】

- ◎出産・育児費用の充実・出会いの場⇒助成を充実すれば、結果はついてくると思う。
出産率を上げるためにも、若者同士の出会いの場をもうける機会を増やす。←行政補助
金サポート
※出会いの場は、重要なテーマですが、どのようにして創出しますか。
- ◎若者の定住⇒結婚した後、より充実した町外へ移る人がいる。
※結婚したら町内に住む、あるいは移住して来てもらう方法は何が考えられますか
- ◎安定した収入⇒育児助成は一時的
- ◎共働きできる環境⇒夫の給与だけでは生活が苦しい。その中で子供を増やすのは大変
家族が病気などで病院に行くと、その間、子どもは一人になってしまう(サロンの充実)。
※子どもが、そこにいると喜びを感じられる場を考える必要がありますね。

■第6グループ

【若者定住促進として重要なこと】

- ◎雇用環境の充実⇒新しい企業の参入
 - ・町営企業の設立
 - ・ワークシェアリング、ジョブシェアリングの導入
- ◎定住するためには雇用が必要。定住のためには住宅も必要
 - ・医療費の無償化、定住住宅
 - ・娯楽施設、インターネット環境の整備
 - ・若者の集う場の整備
 - ・空き家屋を移住者に長期貸与する

- ・結婚式のおこなえる場所
 - ・娯楽、商店街を充実させる
- ※どこにどのような場を整備したらよいですか

◎ショッピングモール等の設置

【少子化対策として重要なこと】

◎小児科等医療の充実

- ・総合病院の設置

◎アミューズメントパーク、コミュニケーションの場等の整備⇒若者の出会い

- ※どこにどのような場を整備したらよいですか

◎出産不安等の解消⇒出産手当増、出産の無料化

- ・子育て支援補助金の創設

◎病院の充実⇒小児科等の設置

- ・義務教育終了までの医療費無料化

◎女性の働く場の確保

- ・育児休暇等の拡充
- ・24時間いつでも子ども預かり施設の設置

■第7グループ

【若者定住促進として重要なこと】

◎雇用問題⇒働く場がないと定住にはつながらない

- ・商業高校を専門学校化、
- ※学びながらコミュニティビジネスの創出などを目指せば楽しいですね。

◎娯楽施設の充実

- ※中高生が求めているものを考えてあげたいですね

◎医療関係⇒貧しい⇒町立病院の設置を

- ※医療への不安は、定住者（生活者）にとっては脅威ですね

◎生活水準のレベルが低い。

◎町の魅力が不十分

- ※町の魅力づくり、若者の居場所づくりは重要、優先課題ですね。

【少子化対策として重要なこと】

◎育児環境⇒仕事しながらの育児が難しい。

- ※母子、父子家庭への支援は欠かせませんね。
- ※イクメンが話題になっていますが、父子家庭は本当に大変です。

※実効性のある地域での子育て（次世代育成）を可能にする発想が求められます。

具体的な何か良い提案はありませんか。

◎産婦人科が遠い

※妊婦さんにとっては医療への不安は、恐怖に近いものがありますね。

◎出会いの場が少ない

※若者（独身者）の出会いの場と共に、多世代交流の場のできると良いですね。

■第8グループ

【若者定住促進として重要なこと】

◎雇用の安定が必要、働く場が増えてほしい。

⇒福島の特徴を生かした海・山の資源を！

◎安価な住居

◎若者向けの店が少ない。アミューズメントパーク的な店が1件でもあれば近隣からも人が集まる。

◎車がなければ生活できない（福島に住んでいると）

◎自然を活かしたキャンプ場などがあれば、人も集まり雇用も少しは増える。

◎都会から福島に住むと不便なことが多い。

◎医療の充実

◎何かしら若者が集まるイベントがあれば！

※例えばどのようなイベントを誰が主催するのですか

【少子化対策として重要なこと】

◎少子化対策・その前に定住促進や雇用の場（助成もあれば）の確保を取組み並行して進めることが必要である。

◎今いる若者がまちを離れなくすることが必要。何があれば町に残るのか考える必要がある。

◎医療と子育てサポートの充実。具体的なことは何か考える必要がある。

◎子育て中（小学生～中学生まで）の経済支援。

◎今ある保育所をベースに利活用（夜間保育、延長保育など）

◎子どもの教育を大事に

◎各グループからの提案

★雇用・就労の場づくりと生活環境の高度化

1・7グループ：『F不便をKこうしてS住みよいM町へ』

- ・高規格道路、IT環境等の基盤整備と、雇用の場の確保
(企業誘致、起業家育成を進め多様な職種を開発)
- ・町の魅力づくりに向け、子ども、中高生、若者の居場所づくりを進める
(交流、出会いの場づくり)
- ・少子化対策として、仕事と子育ての両立できる環境整備
(子どもの遊び場と学習支援、福祉、医療の環境の整備等)
- ・自然環境、伝統文化活用による観光サービスの創出
(地場産品、飲食、生涯スポーツ)

2・4グループ：『遊んで暮らせる町 福島町』

- ・雇用、就労の場の拡充により、豊かで潤いのある生活環境づくりを推進する
(イカ・昆布など地域の特産品を活用した若者、女性の就労の場を拡充する)
- ・若者、女性の就労の場の拡充による出会いの場づくり
(職場での出会いと、子育て支援の拡充)
- ・高校を「学びと実業」の連動した学校へ
(若者の流出を防ぎ、町外からの高校生の入学等増加を図る)

3グループ：『いくべ！福島町』

- ・レジャー、余暇(自由時間活動)環境と、日常消費生活環境の充実による定住促進
(ゲームセンター、カラオケ、映画館等のアミューズメント、ファミレス、飲食、衣料店等の誘致)
- ・新たな教育機関の創設
(水産高校、漁業・農業の専門家育成機関の設置により関連小産業の創出と町民企業の検討)
- ・交通、IT、下水道等のインフラ整備
- ・総合病院等医療機関の誘致・充実
- ・若者の一人暮らしのできる住宅整備、出会いの場づくり

5グループ：『住みよい・充実あふれる福島町』

- ・子育て支援環境の充実から定住促進へ
- ・子育て支援、保育施設、幼児の学びの場の充実

- (保育所・幼稚園の充実、子どもの一時保育、託児所付き施設、育児サロン、
習い事、遊び場)
- ・小児科、産婦人科等医療機関の充実と通院環境の整備
(妊産婦さんの交通手段の確保)
 - ・生活店舗、娯楽施設の誘致
(スーパーマーケット、書店、CDショップ、ファッション衣料店)
 - ・若者、女性等への就労支援の拡充
(中高生の職場体験、若者、女性等への技術習得機会)
 - ・イベント開催、特産品開発による働く場、出会いの場の拡充
(商工会、漁協、観光協会等の共催イベント)

6グループ：『幸せになろう！福島町』

- ・町営企業の設立
(子育てをしながら仕事のできる場、水産業以外の多様な職種の開発)
- ・娯楽施設、飲食店、生活店舗の誘致、開設で若者の出会いの場、交流の場づくり
(アミューズメント、ファッション衣料、薬局、ファーストフード、コインランドリー等)
- ・若者が定住できる住宅整備
(アパート、マンション等)
- ・子育て環境、次世代育成に向けた、医療、教育、保育施設の開設
(産婦人科、小児科、緊急対応できる医療機関、乳幼児保育、学童クラブ等の子育て支援施設)

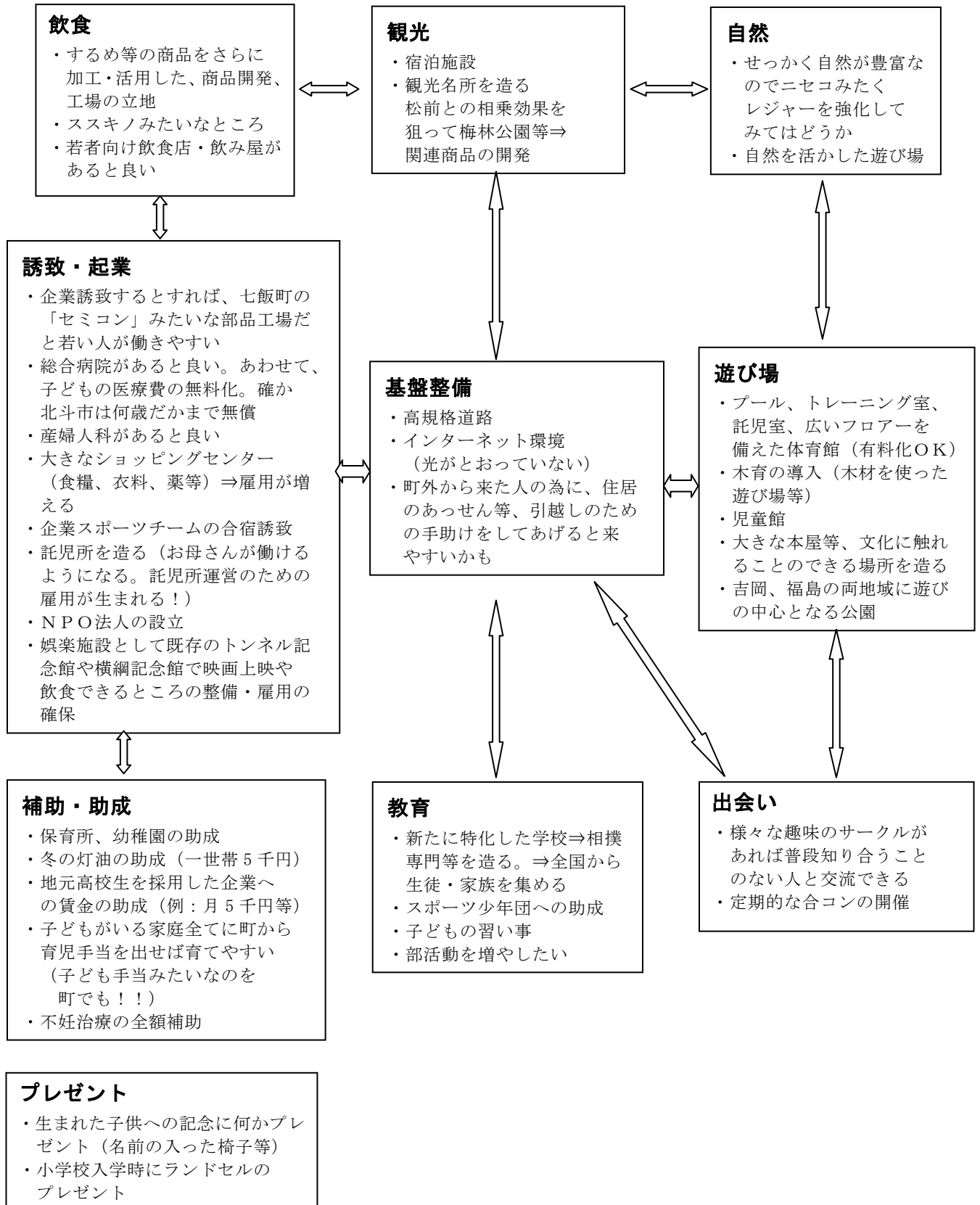
8グループ『すくすく元気 福島町』

- ・住環境の充実
(下水道、若者向け住居、道路、街灯等)
- ・娯楽、観光の仕事化
(フェリー乗り場、キャンプ場活用、地元産品の飲食店、ファーストフード等)
- ・医療機関、子育て支援の充実
(産科・小児科と夜間・緊急対応、夜間保育所、子育て補助金等)

1・7グループ

【澤田 元気、長内 有香、納藤 康宏、中村 愛、中村伸也】

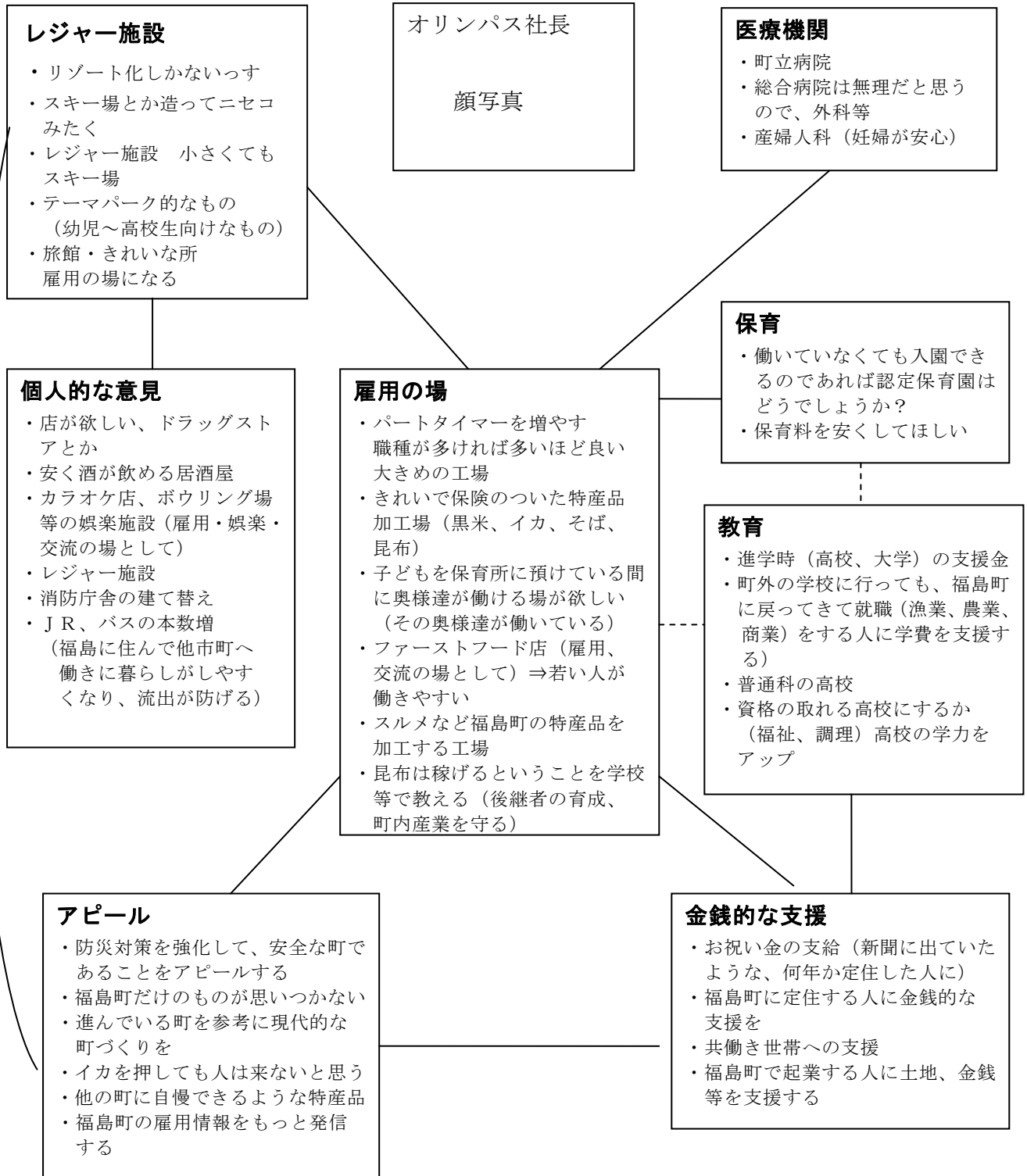
★F不便を Kこうして S住みよい M町へ



2・4グループ

【鈴木 園子、渡辺 一史、鈴木 宏英、住吉紗世子、福井 理央、角谷 理紗、西村 咲妃】

★遊んで 暮らせる町 福島町



3グループ

【木村 勝樹、工藤 賢人、丸山 吉幸、丸山 礼香 平野 文子、村井由里佳】

お店

- ・ご当地グルメが食べられる場所
- ・吉野家が来てほしい
- ・服屋！！
- ・ショッピングモールが欲しい
- ・イオンを誘致する
- ・デパートが必要
- ・ユニクロをつくる
- ・ファミマが欲しい
- ・飲み屋が欲しい
- ・ファミレスが欲しい
- ・飲み屋（バーなど）が欲しい
- ・激安ショップをつくる
- ・スバスのディーラーが欲しい
- ・オートバックス
- ・イエローハット

レジャー

- ・子ども達が遊びたくなるような公園
- ・ゲーセン
- ・ダイビング会社
- ・スキー場
- ・岩部を世界遺産にする
- ・カラオケやボーリング場
- ・温泉旅館が来てほしい
- ・エステサロンが欲しい
- ・映画館が欲しい
- ・夜景の見える場所
- ・カラオケが欲しい

行政

- ・震災の被災者を受け入れる（職をなくした人）
- ・根本的に国がダメ

教育

- ・水産高校
- ・高校以上の学校をつくる
- ・漁業者を育成する機関をつくる
- ・専門学校（漁業・農業）
- ・私立大学が来てほしい
- ・大学をつくる（水産系？もしくはもっと人気のありそうな学科）

★いくべ！ 福島町

病院

- ・総合病院をつくる（3件）
- ・産婦人科を開設する

物件

- ・一人暮らしの物件
- ・マンションが欲しい

インフラ

- ・光回線（2件）
- ・ソフトバンクの電波を強化
- ・下水を整備する
- ・ワンセグが映るようにする
- ・今あるお店をおしゃれにリニューアルする

交通

- ・吉岡海底駅を一般利用できるようにする
- ・JRの駅が欲しい
- ・鉄道を通す

企業

- ・工場（トヨタ）が欲しい（2件）
- ・大王製紙系の企業が来てほしい
- ・IT系の企業を
- ・派遣会社
- ・雪かきをすべて業者がやる
- ・漁業者を一括して会社をつくる
- ・農業をもっと拡大する
- ・自衛隊が来てほしい（アメリカ等）

5グループ

【山木美紗子、館政ななみ、花田 美紀、要田 吾郎、阿部 孝憲】

★住みよい 充実あふれる 福島町

子育て

育児施設の充実

- ・子どもを預ける場所をもっと増やす
- ・育児施設の充実（子どもを預けられる場所）
- ・託児所付パチンコ屋
- ・保育所・幼稚園の充実
- ・託児所付エステ

育児教室

- ・ベビーシッターのような人がいると助かる
- ・習い事など学習のできる場所が多いと良い
- ・育児サロン
- ・子ども達が遊べる場所（新緑公園くらいしか遊べる場所がない。もっと外で遊べる遊具があったらよい）

医療

- ・小児科病院
- ・大きな病院
- ・小児科があればよい（赤ちゃんなどは内科に連れて行っても母親が心配なため）
- ・子どもの医療費、保育料の無料化、減免
- ・産婦人科があればよい（出産はもちろん、健診なども何回もあるため、函館まで行くのが大変。妊婦さんにも負担が大きい）

交通整備の拡充

- ・交通整備の拡充（バス路線等を増やす）
- ・妊婦さんの公共交通料金の無料化

就労支援

- ・町内で働いている人を集めて実際の仕事内容などを教えてもらう機会をつくる
- ・中・高校の職場体験の時間を増やす

生活店舗 ・ 娯楽施設

- ・大型スーパー等の誘致（2件）
- ・本屋、（メロンブックス、アニメイト）
- ・CDショップ（ゲオ、TSUTAYA）
- ・ファッション衣料（ユニクロ、しまむら）

定住促進

イベント

- ・各関係機関（商工会、役場、漁組、環境協会等）と共催で出合いをメインとしたイベントを開催
- ・合コン等の出合いの場に対する補助金

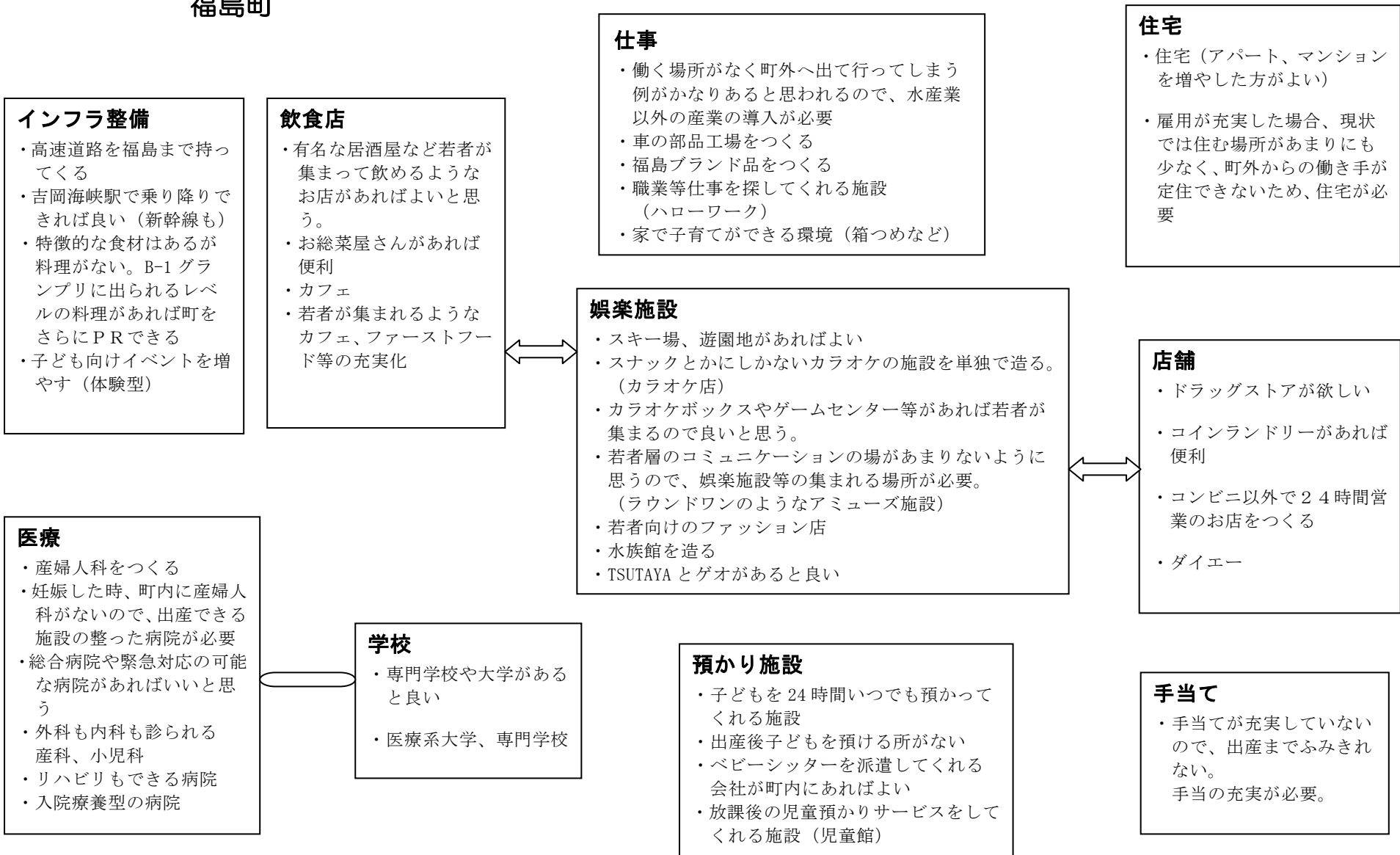
特産品

- ・働く場所（福島町は水産業が盛んなので養殖や加工などの仕事）
- ・町の特産品の拡大
- ・町の特産品を2次加工する工場等の誘致

6グループ

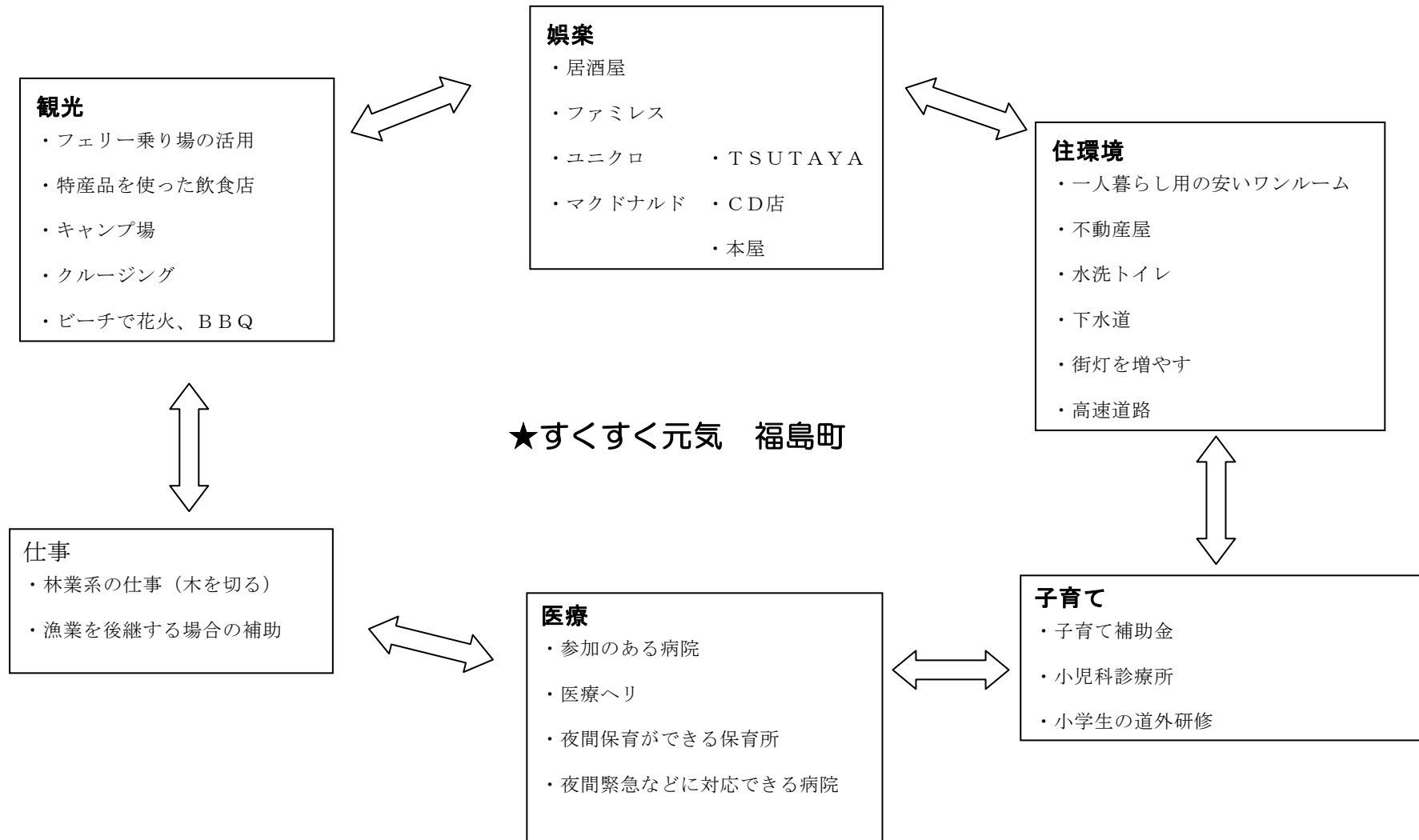
【阿部 達也、佐藤 絢太、西山 雄平、石川美音子、湊 仁貴】

★幸せになろう！ 福島町



8 グループ

【古一 直喜、小笠原圭大、菊地 拓也、澤田加菜恵】



提言書の作成にあって

住民アンケートでは、「住み続ける町として重要なこと」の上位は、

- ①働く場につながる企業の誘致----- 71.6%
- ②安心できる保健・医療・福祉の充実----- 69.8%
- ③買い物に便利な商業環境の整備----- 55.2%
- ④保育園や学校などの子育て支援----- 40.5%
- ⑤便利で快適な交通体系----- 33.6%

◎雇用就労関連・・・これから、本町の経済を牽引していく、農林水産業をコアにした、商業・観光などの雇用就労の場の拡充に向けて

- ・地場産業と地域資源を活用した雇用就労の場づくり
商店、企業及び空き施設（民間、公共）活用
- ・若者の体験学習の場と起業支援
- ・地場産木材需要を定期的に発生させることの可能性

◎教育・文化関連・・・幼児・児童生徒の学びの場の充実と、学習活動や文化・スポーツ活動、趣味・娯楽等の自由時間活動の充実

- ・専門教育等の充実
- ・子どもの遊び場
- ・伝統行事などの文化継承と生涯学習、生涯スポーツ、各種イベントの連携による新たな文化の創出

◎生活・福祉関連・・・誰もが安心して暮らせる日常消費生活、健康・福祉・医療環境の充実

- ・商業環境の整備と地産地消の推進（農水産物の地産地消の推進）
- ・子育て支援の拡充（乳幼児、児童・生徒児の居場所・学びの場（学童保育、保育園等）
- ・日常生活における交通手段等の確保・充実
- ・アミューズメント環境の充実
- ・子育て環境の整備、
- ・医療の充実（産科、小児科等の整備）

※コミュニティの再生についての視点を入れるべきではないか。

- ・住民による地域社会への関わりを上げていくことが、地域にとってセーフティネットの強化にとっても実効性がたかい。

■提言書の構成

1. はじめに
フォーラム開催の目的、趣旨等
2. 福島町の現状と課題
 - ・若者世代から見た現状
 - ・課題
3. 福島町の発展の可能性（めざす方向）
4. 福島町のめざす姿
 - ・6グループの提案
 - ・提案事業の体系
5. めざす姿の実現に向けて町民と行政の協働について